

「アベノミクス」の経済政策

2013年4月24日

京都産業大学 経済学部 上田 昌史

1. 「アベノミクス」とは

様々に表現されているが、安倍首相本人が簡潔にまとめた発言としては、「大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間の投資を引き出す成長戦略の『3本の矢』でデフレ脱却と過度な円高を是正していく。」（2013.1.7 経団連新年祝賀パーティーにおける首相発言）というものがある。

これらの目標を実現すべく、経済政策を立案するために、マクロ政策は内閣府に設置された「経済財政諮問会議」、ミクロ政策は官邸日本経済再生本部に設置された「産業競争力会議」により具体的な政策の方針を策定する。

人材の配置や政策の方針から考えると、財務省よりも経済産業省の政策を重視する傾向があるといえる。

2. これまでの具体的な施策

これまでの具体的な施策としては、

- ・ 2%の節度あるインフレ目標の設定。
- ・ 日本銀行による無制限の量的緩和。
- ・ 日本銀行の買いオペレーションを通じた建設国債の買入れおよび長期保有。
- ・ 政策金利の実質マイナス化。
- ・ 日本銀行法改正の検討。
- ・ 過度な円高の是正。
- ・ 大規模な公共投資（国土強靱化）の実行。

などが挙げられる。これらは主に日本銀行の金融政策であり、日本銀行の総裁および副総裁の人事異動で政権の影響力が行使された結果とも言える。財政政策としては、東日本大震災を踏まえ、近年減少傾向にあった公共投資の拡大が特徴と言える。

3. マクロ面での政策効果

これらの一連の政策パッケージの結果として、マクロ経済への影響としては、

- ・ 大幅な円安、大幅な株高。
- ・ 長期金利の小幅な上昇。
- ・ 国際収支は悪化したが2月期回復。

- ・ 平成 25 年度当初予算でも多額の国債発行。
等が挙げられる。

4. アベノミクスへの賛否

アベノミクスの金融政策に関しては、イエール大学浜田宏一名誉教授、コロンビア大学ジョセフ・スティグリッツ教授、プリンストン大学ポール・クルーグマン教授等米国の経済学会には賛成派が多い。

一方、ドイツ、韓国、中国のように、日本との貿易競合国においては、一連のアベノミクスの経済政策による急速な円安傾向への警戒感を表明している。

また、国際機関としては、クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事は、「(政府債務削減努力や構造改革といった金融政策以外の) 二つの矢が実行に移されるのを心待ちにしている」(2013.4.18) と発言し、「残りの二つの矢」が不十分との趣旨を表明している。

5. 今後注目するポイント

ここからは、日経ビジネス「熱狂の行き着く先は」(2013年2月25日号)で紹介されている通り、アベノミクスの「三つの矢」は、想定通りに上手くいけばよいが、途中で頓挫すると、財政、金融、為替市場等に大きなダメージを受ける可能性がある。そのアベノミクスの成否を握る重要なポイントを考慮する。

まず、短期的には、残る「二本の矢」を本格的に実施するまでの猶予時間を稼ぐための現行政策が成功出来るか判定するために、次の点を観察する必要があるだろう。

- ・ 2013年7月に実施される参議院選挙で与党が過半数を獲得して、衆参のねじれを解消し政策を継続的に実施できるか。
- ・ 現在の円安や株高水準がどこまで継続するか。
- ・ 2%のインフレターゲットを期限までに達成できるか。
- ・ 2014年度からの消費税増税を実施出来るか。

次いで、中期的には、「三本の矢」の政策が成功出来るか判定するために、次の点を観察する必要があるだろう。

- ・ 財政のプライマリバランス黒字化が達成できるか。
- ・ 規制緩和の実施と新たな産業創成が出来るか。

これらを観察しておくことで、アベノミクスの経済政策が着実に実行されて一定の成果を得られるかを判断出来るのではないかと考える。